

弘前市の現状と弘前市らしさを生かした都市づくりの課題を整理すると、以下ようになります。

	現 状	弘前らしさとは	弘前らしさを生かし育むための課題	
活 力	<ul style="list-style-type: none"> ●本格的な人口減少・高齢化時代に入し、近年開発された郊外住宅地と中心市街地の一部で人口が増加しているほかは、軒並み人口が減少している。 ●中心市街地は人口密度が低く、高齢化率が高い。近年マンションの建設が進み人口が回復しているが、商店街の分断や街並みの悪化などの問題もみられる。 ●基盤未整備で地形の起伏もある住宅地などで、人口が大きく減少している。また、農村地域における人口減少・高齢化が著しい。 ●市街地は拡大を続けてきたが、比較的コンパクトな形態を維持している。 ●郊外開発・市街地拡大が終息しつつある一方、近年は中心市街地活性化の取組を重点的に展開し、多様な都市機能・資源が存在する。 ●弘前市は、就業、教育、文化、商業、医療、行政など多様な都市機能が集積し、広域的な中心性を有しており、特に学校や医療施設の多さは特徴的である。 ●大学生が多い。ただし、若年人口全体は減少を続けている。 ●中心市街地活性化の各種取組により、空き店舗率の改善などが見られるものの、中心市街地の商業の市全体に占めるシェアは減少が続いている。 ●郊外の区画整理地や幹線道路沿いなどに大規模商業施設が立地しており、周辺地域の生活利便性を高めている一方、中心市街地とは競合する関係にある。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶市街地がコンパクトで、中心市街地や拠点地区を中心とした生活が可能なこと ▶教育文化、医療福祉など多様な機能が集積し、広域的な中心性を有し、学園都市として、学生の数が多いこと ▶中心市街地に多様な機能・資源や近年のまちづくりの成果が集積していること 	<ul style="list-style-type: none"> ▶市街地拡大の必要性は低く、市民生活の利便性の確保や環境問題への配慮などから、現在のコンパクトな市街地を維持していくこと ▶教育文化、医療福祉のストックや人的資源を活用しながら人口減少・超高齢社会に対応した対応した生活サービスの充実や新たなまちづくりの展開に役立てていくこと ▶中心市街地におけるまちづくりの成果を活用しながら、駅周辺の整備、多様な都市機能の集約、幅広い世代の居場所の確保、歩きやすい環境づくりなどにより新たな居住を誘導し、歩いて楽しめる奥行きのある中心市街地を形成していくこと ▶中心市街地と周辺の拠点地区との関係を整理しながら、周辺地域の生活を支える生活拠点を充実していくこと 	都市機能
暮らしを支える基盤	<ul style="list-style-type: none"> ●都市計画道路の整備率は約64.3%。計画の見直しで一部の路線が廃止された。 ●市街地南部には道路基盤の未整備な市街地がある。 ●周辺都市との間を結ぶ鉄道や市内のバス網など、公共交通が充実している。ただし自家用車の普及等で利用者が減少しており、路線バスは赤字経営の路線が約7割を占める。 ●地形が比較的平坦なことなどから、非積雪時は自転車の利用が多い。 ●工業出荷額は増加傾向にあるが、産業用地が完売し不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶幹線道路が整備されていて、バス・鉄道などの公共交通がしっかりしていて、周辺自治体や主要な都市機能にアクセスしやすいこと ▶公共交通や自転車を利用しやすいまちであること 	<ul style="list-style-type: none"> ▶生活不便地域の改善や産業と流通の振興に寄与するような道路・交通基盤を整備すること ▶公共交通機関の維持や自転車で走行しやすい空間づくりなどにより、自動車に頼らなくても快適に移動できる環境を整備すること 	交通
自然・土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ●周辺部に岩木山などの山々や岩木川、田園地域などの豊かな自然資源・景観があり、弘前公園も含めて市民に評価されている。 ●公園は主に面整備と併せて整備されており、その他の市街地では不足している。 ●冬季の積雪量は年々減少する傾向にあるが、近年は豪雪が発生し、市民生活や市の財政に大きな支障が出ている。 ●全国有数の農業都市であり、農業従事者は減少しているが、農業生産額はほぼ横ばいとなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶周辺に豊かな自然や農村地域があり、コンパクトな市街地を支えていること ▶全国有数の農業都市であり、自給自足や地産地消が可能な持続可能性の高いまちであること ▶雪と共に暮らすまちであること 	<ul style="list-style-type: none"> ▶豊かな自然や農村の景観を保全するとともに、農業農村地域の生活を支えるため、小さな拠点づくりや福祉・移動などのサービスの提供を行うこと ▶雪と折り合いながら四季を通じて生活を楽しむようにするため、市全体で開始された総合的な雪対策に対して、まちづくりの側面から貢献していくこと 	自然
成り立ち	<ul style="list-style-type: none"> ●戦災や自然災害を逃れ、旧城下町の町割りや各時代の歴史的建造物が残されている。ねぶた、さくらまつりなどの行事や伝統工芸などもさかんである。 ●景気の低迷や東日本大震災の影響を受けつつも、観光入込客数はほぼ横ばいで推移しており、また、一時期下がっていた外国人観光客数も回復してきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶多様な歴史・文化資源が重層的に残されていること ▶歴史・文化・自然等の多様な魅力がコンパクトに集積した観光都市であり、近年は国外でも認知されつつあること 	<ul style="list-style-type: none"> ▶歴史・文化資源を保全するだけでなく十分に活用していくことで、弘前のまちの魅力をさらに高め、市民生活の豊かさや観光の振興につなげていくこと ▶多様な観光資源の魅力の維持・向上や交流のための基盤づくりなどにより、国内外から多くの人を訪れ滞在する国際的な観光都市として発展させること 	歴史・文化

弘前らしさを生かし育むための課題

豊かな自然や農村の景観を保全するとともに、農業農村地域の生活を支えるため、小さな拠点づくりや福祉・移動などのサービスの提供を行うこと

中心市街地におけるまちづくりの成果を活用しながら、駅周辺の整備、多様な都市機能の集約、幅広い世代の居場所の確保、歩きやすい環境づくりなどにより新たな居住を誘導し、歩いて楽しめる奥行きのある中心市街地を形成していくこと

公共交通機関の維持や自転車で走行しやすい空間づくりなどにより、自動車に頼らなくても快適に移動できる環境を整備すること

市街地拡大の必要性は低く、市民生活の利便性の確保や環境問題への配慮などから、現在のコンパクトな市街地を維持していくこと

雪と折り合いながら四季を通じて生活を楽しめるようにするため、市全体で開始された総合的な雪対策に対して、まちづくりの側面から貢献していくこと

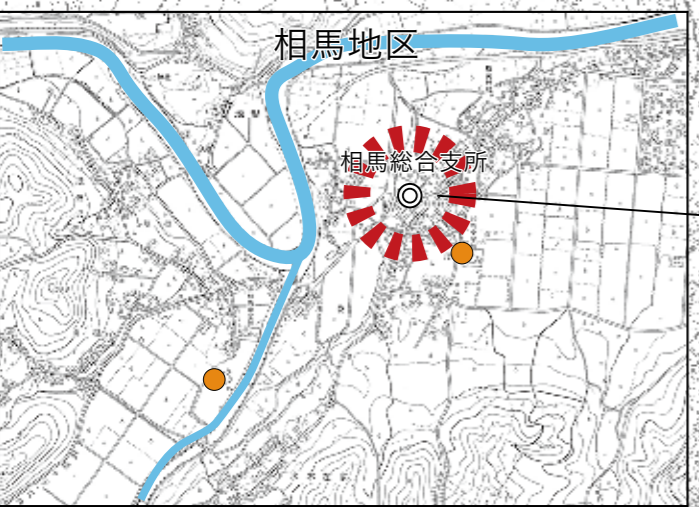
教育文化、医療福祉等のストックや人的資源を活用しながら、人口減少・超高齢社会に対応した生活サービスの充実や新たなまちづくりの展開に役立てていくこと

歴史・文化資源を保全するだけでなく十分に活用していくことで、弘前のまちの魅力をさらに高め市民生活の豊かさや観光の振興につなげていくこと

多様な観光資源の魅力の維持・向上や交流のための基盤づくりなどにより、国内外から多くの人々が訪れ滞在する国際的な観光都市として発展させること

生活不便地域の改善や産業と流通の振興に寄与するような道路・交通基盤を整備すること

中心市街地と周辺の拠点地区との関係を整理しながら、周辺地域の生活を支える周辺拠点を充実していくこと



凡例

- 鉄道(主要駅)
- 鉄道(駅)
- 都市計画道路
- 都市計画道路(未整備)
- 都市計画道路(整備中)
- 主要河川
- 市域
- 都市計画区域
- 市街化区域
- 周辺拠点
- 主な面整備地区
- 公園
- 寺社群
- 伝統的建造物群保存地区
- 庁舎
- 大規模商業施設
- 医療施設
- 教育施設
- 国指定文化財

